

妖々夢と虹

妖源

アリス・マーガトロイドの妖々夢での二つ名は「七色の人形使い」である [1]。

七色と言えば皆さんは何を思い浮かべるだろうか。私は虹を思い浮かべる。

実は東方妖々夢にはその虹がボスの名前もしくは服の色に大きくかかわっている。

ただし、途中からややこしくなってくるのでこの考察の中で橙、藍、紫については人物については何もつけず色については～色とする。

私達は虹の色を「赤・橙色・黄・緑・青・藍色・紫色」の七色と認識するが、民族によっては2色から8色までの認識の違いがある [2]。

虹には光が屈折するとき波長の関係で屈折の角度が変わり赤から紫色までの色に分かれるので色の違いが出来る [3]。この実験でよく使われるのがガラスでできた三角柱のプリズムと呼ばれる器具である [3]。またははっきりとした色の違いがないので見方によっては違いが出てくる [3]。因みに、プリズムと言えば妖々夢の4面ボスであるプリズムリバー三姉妹が浮かぶ。

幽々子と紫は旧知の仲ではあるが紫は共謀して異変を起こすほど春にこだわっていない。(幽々子は西行妖を満開にしようとして幻想郷中の春を集めたが、紫は冬になると春を集めるための活動をするわけでもなく冬眠をしている。[1]) また、藍と橙、紫と藍の使役の関係をわかりやすくするため (Extra Phantasm ステージの中ボスが式神で各ボスが式神を使う者である。) 春を集める本編の6ステージと八雲家が関係する2ステージの8ステージ構成にしたと考える。

元々紅魔郷のように本編6ステージ+EXTRAステージの7ステージ構成なので虹が妖々夢に関係するのであればこちらの方が分かりやすいが、あえて8ステージ構成にしたのはやはり上で述べたような大きな意味

があるに違いない。

また、虹の色を8色と認識する部族があるので [2]、この8ステージ構成は虹の色からは外れていない。また、古代の日本は虹の色を5色と考えていた [2]。それが七色になったのは江戸の末期頃である [2]。また、博麗大結界が出来たのが1885年度であり [4] 江戸時代の末期頃の幻想郷は崩壊寸前だった [5]。なので、虹の考察どころではないと考える。よって虹についての考察が止まっているのであれば虹の色5色とも考えられる。

この二つを組み合わせる。ただし考察の上で虹の8色の認識を黄と緑の間に黄緑を加えた「赤・橙色・黄・黄緑・緑・青・藍色・紫色」と考える。するとこの8色のうちの橙色・緑・青・藍色・紫色の5色のみに関連することがある。

それは、橙色・藍色・紫色は登場人物の名前に、緑・青は服の色に関係しているという事である。

しかし、虹には主虹と副虹がありそれぞれ虹の並び順が逆なので赤から1面と考えることも紫色から1面と考えることもできるが紫色には聖徳太子の定めた冠位十二階にあるように位が高い (=力を持っている) 人が紫色を使っていたので紫色を一面と考えるのには無理がある (実際紫は境界を操る能力の持ち主であり、その能力の使い方によってはすべての物の創造、破壊が可能であるので強い能力だと考える [1])。

よって赤から1面と考えると

2面ボスの橙の橙色

5面ボスの妖夢の服の色の緑

6面ボスの幽々子の服の色の青

Extra ボス (=7面) の八雲藍の藍色

Phantasm ボス (=8面) の八雲紫の紫色

である。